



「もったいない」からノーベル賞 学校長 上岡 旭

ずいぶん日が短くなりました。10月3日の運動会では、準備から始まり、各種競技への参加・片付け等大変お世話になりました。今年は、「思い出に残る運動会」をテーマに取り組んでまいりましたが、子ども達のがんばりでほんとうにいい運動会ができたと思います。

さて、2010年のノーベル賞は、日本人2氏が受賞し、日本のノーベル賞受賞は18人となりました。

2002年にノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんは、小学校の理科の授業が面白くて理科が大好きになったことは有名な話ですが、もう一つは、「もったいない」から、ノーベル賞受賞に至ったということです。

早くに母を亡くした田中さんは、のこぎりの刃を研ぐ仕事をしていた父の姿を見ながら育ったそうです。古くなったのこぎりの刃をもとに戻すには、とても時間と根気がいる。この父の仕事から、田中少年は「時間をかけて育てあげていくこと」の大切さをしっかり教えられました。他方、母代わりに祖母の口癖は「もったいない」だったそうです。田中少年が紙をまるめて捨てようすると、「そんなことをすると、もったいない」といって、広げて鼻紙にするように言われた。そこから、「どんなものでも捨てたりしないで、大切に使う心」を学んだといえます。

幼稚園の担任の先生も、「お米ひとつぶ、ちいさな紙一枚でも、これをつくってくれた人の汗と苦労がまつまっているのよ」と言って、「どんなものでも大切にしよう」と教えた。これは、「もったいない」という祖母の口癖と重なったそうです。

東北大学に進学した田中青年は、大学院への進学をすすめられましたが、島津製作所への就職を決めました。そこで田中青年は、仲間4人と、たんばく質にレーザー光線をあてて、たんばく質を壊さずに細かく分ける研究をしていました。失敗の連続でしたが、「もったいない」と思って捨てなかった補助剤をたまたま混ぜ合わせた結果、レーザー光線の力を弱める補助剤の発見につながりました。これが「ソフトレーザー脱着法」として、2002年度のノーベル化学賞を受賞することになりました。

今の子ども達は、使い捨て文化のせいか物を大切にしません。塩津小学校でも、運動場にボールがころがっていても平気など、そういう傾向があります。今一度、「もったいない」を合い言葉に物を大切にする習慣を身に付けさせたいものです。

ゲスト・ティーチャー

鵜殿さんに調理を、岩野さんに戦争の話を、吉岡さんには絵のかきかたを教えてくださいました。とても勉強になりました。そして、楽しかったです。ありがとうございました。

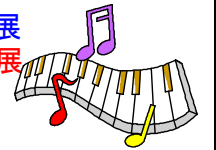


11月の予定

- 1日(月) 安全点検
あいさつ運動
セーフティネット
委員会
教育実習(～30日) 南拓哉先生
- 3日(水) 文化の日
- 4日(木) 体重測定
- 6日(土) 土曜行事(釣り大会)8:30
- 10日(水) クリーン作戦
- 11日(木) 歯科検診
- 12日(金) 国際交流 ギリ・ガネーシュさん
- 13日(土) 土曜行事(釣り大会)予備日
- 15日(日) クラブ



- 19日(金) 音楽会
- 22日(月) 防犯・安全演奏会
委員会
ALT
- 23日(火) 勤労感謝の日
- 24日(水) 給食後一斉下校
公開授業
- 25日(木) 公開授業
- 26日(金) 授業参観・保護者学級・懇談会
- 27日(土) 秋の書写作品展
- 28日(日) 秋の書写作品展
- 29日(月) 世代間交流
クラブ



思い出に残る運動会

子どもたちは、精一杯がんばりました。運動会の全ての演技をやり遂げ、とても大きく成長しました。

